

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地	
船橋情報ビジネス専門学校		昭和56年9月22日		鳥居高之		〒 273-0005 (住所) 千葉県船橋市本町7-12-17 (電話) 047-425-1051	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地	
学校法人三橋学園		昭和41年9月21日		鳥居高之		〒 273-0005 (住所) 千葉県船橋市本町7-12-17 (電話) 047-425-1051	
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	ITエンジニア科4年制		令和1(2019)年度	令和3(2021)年度		
学科の目的	情報システム構築に必要な技術と、ネットワーク、情報インフラ、セキュリティ構築に必要な技術を含わせて習得、社会人として必要な能力の養成、企業に役立つ人材の育成を目的とします。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	4年制の学科である。卒業するまでに情報処理の国家試験を7回チャレンジでき、IT系高度情報処理技術者を目指す。R5卒業生 情報処理技術者試験合格実績 レベル4:情報処理安全確保支援士試験10名、ネットワークスペシャリスト2名 データスペシャリスト1名、レベル3:応用情報技術者試験20名、レベル2:基本情報技術者試験47名、情報セキュリティマネジメント試験5名、レベル1:ITパスポート試験44名。シスコ技術者認定試験合格実績:CCNA37名。						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 124 単位	173 単位	77 単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率			
140 人	208 人	0 人	0 %	0 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		47 人				
	■就職希望者数(D)		47 人				
	■就職者数(E)		46 人				
	■地元就職者数(F)		2 人				
	■就職率(E/D)		98 %				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		4 %				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		98 %				
	■進学者数		0 人				
	■その他						
	(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)						
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) IT情報サービス業、情報通信業、一般企業の情報処理部門							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		有		評価結果を掲載したホームページURL <a href="https://www.chiba-fjb.ac.jp/www/disclosure/hyouka_dai3.pdf">https://www.chiba-fjb.ac.jp/www/disclosure/hyouka_dai3.pdf</a>		
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.chiba-fjb.ac.jp/www/course_u.html">https://www.chiba-fjb.ac.jp/www/course_u.html</a>						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数						0 単位時間
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数						単位時間
	うち企業等と連携した演習の授業時数						単位時間
	うち必修授業時数						単位時間
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数						単位時間
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						単位時間
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)						単位時間
	(B: 単位数による算定)						
	総単位数						124 単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数						0 単位
	うち企業等と連携した演習の単位数						14 単位
	うち必修単位数						124 単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数						0 単位
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数						14 単位
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)						0 単位
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して6年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				2 人
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				6 人
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人
	計					8 人	
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					5 人		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT業界の動向や人材ニーズを、IT企業、システム利用者、地域IT業界団体から成る教育課程編成委員会から直接情報を得て把握する。あわせて卒業生の就職先企業からの要望のアンケートも参考とする。また学校の自己評価および学校関係者評価、ならびに全生徒に対し学期末ごとに実施される授業理解度調査からも教育課程への課題を得る。これらを総合してより実践的に情報システム構築を行うシステムエンジニア、プログラマの育成をめざす教育課程の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会は学校長に任命され、年に2回以上招集される。年度末に行う委員会において教務部長から次年度の教育課程の原案を受取り委員会で審議し結果を教務部長に報告する。教務部長はこの審議結果を実務的かつ専門的な観点からの助言として、それを参考に教育課程案を作成して校長決済を受ける。この教育課程案を理事会審議にかけ承認を得て次年度の正式な教育課程とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
鳥居 高之	船橋情報ビジネス専門学校	R3.10.1～R7.9.30(4年)	
杉山 剛	船橋情報ビジネス専門学校	R3.10.1～R7.9.30(4年)	
森田 秀明	船橋情報ビジネス専門学校	R3.10.1～R7.9.30(4年)	
武次 靖雄	公益社団法人千葉県情報サービス産業協会 (株式会社 エー・シー・イー 代表取締役)	R3.10.1～R7.9.30(4年)	①
藤井 洋一	日本ナレッジ株式会社	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③
宮津 隆久	船橋商工会議所	R5.10.1～R7.9.30(2年)	①
西島 富久	株式会社働楽ホールディングス	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③
菅井 美賢	株式会社ピーエスシー	R5.10.1～R7.9.30(2年)	③
町田 一哉	株式会社ベイシス	R5.10.1～R7.9.30(2年)	③
山崎 健太郎	株式会社myふなばし	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③
中尾 佳子	株式会社サクラ	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、2月)

(開催日時(実績))

令和5年度第1回 令和5年10月31日 17:00～18:00 令和6年度第1回 令和6年10月31日 17:00～18:00

令和5年度第2回 令和6年2月28日 17:00～18:00 令和6年度第2回 令和7年2月20日 17:00～18:00 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

以前より委員会の助言からPython、Javaなどの言語、AWS関連をカリキュラム化してきた。委員会では、昨年から「AI」が避けられない社会情勢や、ChatGPTの実業務での利用、学会でのAIを使った研究発表が行われ産学連携できる企業を募っている状況など。今や実用レベルで取組みが始まっていることが各委員から報告された。学校でも「AI」を扱う時期の到来を告げるなかで、カリキュラムとして「AIプログラミング基礎演習」「Pythonプログラミング演習」の授業を開始した。AWSにおいてもAWSクラウドプラクティショナーを取得するよう勧めており、既に80%以上の合格者を出している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携する演習においては連携先企業等の担当者を定め、実習・演習の計画時、実施中、評価のそれぞれのフェーズにおいて科目担当の本校所属教員への助言等の連携を密に行う。評価においては連携の結果を生徒にフィードバックする。また、実習・演習を実践的なものにするために必要に応じて適宜、実習・演習の場にも企業等の担当者が参加する。尚、実習の・演習の企業と連携した計画は職員会議にて報告し承認を受ける。実施時の連携状況・連携結果についても適宜職員会議にて報告し指示を受ける。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ソフト開発、ネットワーク、セキュリティの各分野において、それぞれ、Linux Professional institute(LPI)日本支社から教材提供等技術支援を受けている。それに加え株式会社SHIFT、NTT東日本から教材の提供、講師派遣の支援を受けている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
ソフトウェアテスト基礎	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	ネットワークスペシャリスト試験および応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの利活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、記述式試験の解答テクニックを身に付ける。講義→演習問題→問題解説の流れで進める。	株式会社SHIFT
アジャイル開発基礎	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。	株式会社SHIFT
システム開発演習Ⅰ	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	ネットワークスペシャリスト試験および応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの利活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、記述式試験の解答テクニックを身に付ける。講義→演習問題→問題解説の流れで進める。	東日本電信電話株式会社
Linuxサーバー構築Ⅰ	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に付ける。 講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。	Linux Professional institute(LPI)
Linuxサーバー構築Ⅱ	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に付ける。 講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。	Linux Professional institute(LPI)

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教員研修規定に従い教員は年度研修計画通り知識技術教育・授業及び生徒に対する指導力の研修を受ける。研修計画は学科長と教務部長が教育課程編成委員会等から得た業界動向と、各教員の能力、担当業務、昇格等を基に計画する。知識技術教育はWebデザイン、情報システム構築に関し、その分野の知見のある企業等と連携する。指導力の研修も十分な知見を持つ企業等と連携する。研修の実施は企業等の主催又は講師の派遣を受ける。	
(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 「セキュリティ人材育成コンソーシアム」教員向けセミナー	連携企業等: セキュリティ人材育成コンソーシアム事務局
期間: 2023/8/1	対象: セキュリティ指導教員
内容 シスメックのサイバーセキュリティの取り組みについて。セキュリティ業界の仕事。	
研修名: 専門学校教員向けChatGPT業務効率化セミナー	連携企業等: デジタルハリウッドアカデミー
期間: 2023/12/20	対象: 全教職員
内容 1.生成AIのインパクト 2.プロンプトエンジニアリングを学ぶ重要性とは 3.魅力的な授業構成を”爆速”で作ろう	
研修名: たった60分でプロ並みのホームページができるWordPress作成初級講座	連携企業等: Udemy
期間: 2023/7/28	対象: Web指導担当
内容 WordPressを使ってオリジナルのブログやHPを作成する講座。	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 新人研修の行動傾向から導き出す、若手育成の具体案	連携企業等: 株式会社インソース
期間: 2023/12/15	対象: 主任教員
内容 1.2023年度の新人の傾向・特徴、2.特徴に対する教育方針と具体的な施策、3.教育担当への教育について	
研修名: 就職年次向けの面接練習	連携企業等: 学内研修
期間: 2024/2/7	対象: 全教員
内容 ・最近の就職動向について。・面接練習のデモと事前準備物。・実際にチームで分かれて実演。・意見交換会	
研修名: 2023年度ハラスメント研修	連携企業等: 株式会社エデュースキャリアデザイン
期間: 2023/8/8	対象: 全教職員
内容 学校現場で起こりうるハラスメントの留意点を学び、事例を考察する	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	はじめてサーバーセキュリティ	連携企業等:	Grow with Google
期間:	2024/8/21	対象:	全教員
内容	1. 情報セキュリティの現状と取り巻く環境 2. セキュリティに対する組織のあり方を定義する 3. 内部からの情報漏洩を防ぐために		

研修名:	ネットワークの基礎に関する講義	連携企業等:	学校内
期間:	2024/8/23	対象:	ネットワーク担当教員
内容	<ネットワークの基礎> 1. OSIモデル 2. ローカル・エリア・ネットワーク 3. MACアドレスとIPアドレス 4. イーサネットLANのセグメント化 5. DNS 6. VLANとVLAN間ルーティング		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	学校コンプライアンス対策講座	連携企業等:	株式会社エデュースキャリアデザイン
期間:	2024/8/6	対象:	全教職員
内容	1. ハラスメントの種類 2. 近年の学校でのハラスメント事例 3. モデルケースによる考察 5. ハラスメントの初期対応		

研修名:	退学を減らすためには	連携企業等:	学校内
期間:	予定	対象:	全教員
内容	退学を減らすため、「FJBの価値」「SHR運営」「学生や親御さんとの電話」「覚悟」の観点から考察する。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の学校関係者評価委員は、評価の透明性が保てるよう全員本校の教職員以外で無償化にて参加とし、特に企業等のメンバーは職業実践的専門的評価に資する就職先業界から選出する。委員会は学校自己評価、学校の現状に関する関連資料等を踏まえて、学校自己評価の内容、今後の改善方策、実際の取組、各々が適切であるか審議し助言を行う。この助言は、学校運営、教育活動の改善と自己評価の改善方策の検討において活用する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

全体の評価を通じて特に不適とする点は委員会では指摘されなかった。教育活動及び学生支援、学修の成果について確認がなされた。R5年度は単位制に切り替え、授業が柔軟に組み替えることができる点。従来の「必修」「必修選択」に加えて「任意選択」科目を導入した点。更に学科横断の授業を採用しようと考えている点を説明した。各学科の少数ニーズを纏めてひとつの教科を成立させる試みについて評価された。委員から課題とされた企業連携授業の取組み方では、通信企業様主催でDX教育の授業を行うことができた。実務者経験者が講師を務める講義は学生にとって大きな刺激で動機付けとなった報告を行う。少子化による競争激化、留学生の受け入れ、グローバル化については状況を説明し、委員から助言をいただく。今後の課題として対応策を検討していくこととした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
武次 靖雄	公益社団法人千葉県情報サービス産業協会 (株式会社 エー・シー・イー 代表取締役)	R3.10.1～R7.9.30(4年)	業界団体等委員
藤井 洋一	日本ナレッジ株式会社	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員
宮津 隆久	船橋商工会議所	R5.10.1～R7.9.30(2年)	経済団体委員
西島 富久	株式会社働楽ホールディングス	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員
菅井 美賢	株式会社ピーエスシー	R5.10.1～R7.9.30(2年)	企業等委員
町田 一哉	株式会社ベイス	R5.10.1～R7.9.30(2年)	企業等委員
山崎 健太郎	株式会社myふなばし	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員
中尾 佳子	株式会社サクラ	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: URL:https://www.chiba-fib.ac.jp/www/disclosure/hyouka\_kankeisha.pdf

公表時期: 令和6年11月30日予定

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の基本情報、教育活動や学校運営についてホームページにて情報公開し広く周知する。情報公開に当たり情報の信頼度を保つため、内容変更が発生する都度、正確性、利便性等の確認の上、広報部長の承認を得る。具体的な内容は、学校の指導方針・人材養成目的、高等学校等の進路指導のための情報、職業実践専門的な実習・就職指導等の企業連携に関する情報、教育活動の成果・実績、教育プログラム等とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要と沿革、年間スケジュール
(2) 各学科等の教育	入学案内、学科案内、資格情報、就職情報、主な就職先一覧
(3) 教職員	教職員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	企業向け研修講座、IT設備、就職情報
(5) 様々な教育活動・教育環境	年間スケジュール、活動紹介
(6) 学生の生活支援	キャンパスライフ、学費支援
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧、学費支援
(8) 学校の財務	貸借対照表、収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.chiba-fib.ac.jp/www/index.html>

公表時期: 令和6年11月30日予定

授業科目等の概要

(工業専門課程 ITエンジニア科4年制)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		セキュリティとネットワーク	ITパスポート試験、基本情報技術者試験合格に必要なかつ十分な「セキュリティとネットワーク」の知識を身に付ける。	1前	72	4	○			○	○			
2	○		セキュリティ	前期で身に付けたセキュリティの知識を応用して、基本情報技術者試験の科目B問題対策を中心に行う。	1後	36	2	○			○	○			
3	○		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	論理的思考力の向上を目的とし、基本情報技術者試験の合格を目指す。 Java言語演習と組み合わせ、講義と演習のハイブリット学習を行う。	1前	72	4	○	△		○	○			
4	○		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	基本情報技術者試験の合格。論理的思考力を養い、応用情報技術者試験やシステム開発のための土台づくりを行う	1後	54	3	○	△		○	○			
5	○		ハードウェア	ITパスポート試験、基本情報技術者試験合格に必要なかつ十分な「ハードウェア」の知識を身に付ける。	1前	36	2	○			○	○			
6	○		ソフトウェア	ITパスポート試験、基本情報技術者試験合格に必要なかつ十分な「ソフトウェア」の知識を身に付ける。	1前	36	2	○			○	○			
7	○		システム設計	(1) システムのライフサイクルをメインに学習する。 (2) 基本情報技術者試験のシステム開発に関する範囲を学習する。	1前	36	2	○			○	○			
8	○		ストラテジとマネジメント	(1) ストラテジやマネジメントを意識し、体系的なIT業界の知識をメインに学習する。 (2) 基本情報技術者試験のシステム開発に関する範囲を学習する	1前	36	2	○			○	○			
9	○		データベース	データベースに関する基礎知識を学ぶ	1前	36	2	○			○	○			
10	○		Oracle データベース演習	基礎的なデータベースの設計技術、実践的なSQLによる操作を学ぶ。	1後	36	2	△	○	△	○	○			
11	○		国家試験対策	基本情報技術者試験、応用情報技術者試験に合格するための学習を行う。	1後	36	2	○			○	○			
12	○		Office演習	Microsoft Office Specialist (Excel) に出題される内容を網羅的に学ぶ。	1後	54	3	○	△	△	○	○			
13	○		応用セキュリティ	応用情報技術者試験の情報セキュリティ分野を念頭に置く。システムを安全に使用してもらうための情報セキュリティの基礎知識と、エンジニアの実業務を踏まえた記述式試験の解答テクニックを身に付ける。	1後	18	1	○			○	○			
14	○		応用ネットワーク基礎	応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの利活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、エンジニアの実業務を踏まえた記述式試験の解答テクニックを身に付ける。	1後	36	2	○			○	○			
15	○		応用プロジェクトマネジメント	応用情報技術者試験合格に向けて、プロジェクトマネジメントの基礎知識、基本となる考え方を学ぶ。	1後	18	1	○			○	○			

(工業専門課程 ITエンジニア科4年制)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
16	○			応用サービスマネジメント	応用情報技術者試験合格に向けて、サービスマネジメントの基礎知識、基本となる考え方を学ぶ。	1後	18	1	○			○	○			
17	○			応用プログラミング	応用情報技術者試験のプログラミング分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を学ぶ。	1後	18	1	○	△		○	○			
18	○			Java言語演習Ⅰ	実際に手を動かすことにより、コンピュータの基礎的な操作方法を覚えながらJavaプログラミングの演習を行う。既に理解したアルゴリズムの内容について、Javaではどういった書き方になるのかを学ぶ。	1前	72	4	△	○	△	○	○			
19	○			Java言語演習Ⅱ	基本情報技術者試験に合格する。Javaプログラミングを通じて、オブジェクト指向の基礎を身に付ける。	1後	72	4	△	○	△	○	○			
20	○			検定対策Ⅰ	ITパスポート試験、基本情報技術者試験科目A免除試験に合格するための学習を行う。	1前	72	4	○			○	○			
21	○			検定対策Ⅱ	基本情報技術者試験、ジョブパス、漢字検定、MOS Excelに合格するための学習を行う。	1後	72	4	○			○	○			
22	○			シスコネットワーク演習	シスコ・ネットワークアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワークエンジニアもしくはネットワークインフラに詳しいシステムエンジニアとして必要とされる知識とスキルを身に付ける。	2前	108	6	△	○		○	○			
23	○			ネットワーク構築演習Ⅰ	Cisco社が提供しているシミュレータソフト(Packet Tracer)を利用し、L2、L3レベルでの簡単なネットワークの構築、およびトラブルシューティングを行う。	2前	36	2	△	○	△	○	○			
24	○			ネットワーク構築演習Ⅱ	Cisco社が提供しているシミュレータソフト(PacketTracer)を利用し、L2、L3レベルでの簡単なネットワークの構築、およびトラブルシューティングを行う。また、後半では各種シナリオを用意し、実際のNW提案に関するグループワークを行う。	2後	36	2	△	○	△	○	○			
25	○			サーバサイドプログラミング演習Ⅰ	Javaプログラミングの実践的な知識を学び、アプリケーション開発の基礎を身に付ける。	2前	72	4	△	○	△	○	○			
26	○			サーバサイドプログラミング演習Ⅱ	MVCモデルを用いてWebアプリケーションを開発する技術を身に付ける。	2後	72	4	△	○	△	○	○			
27	○			Web技術演習Ⅰ	Webの概要と構築に必要なHTML及びCSS技術を学習する。	2前	72	4	△	○	△	○	○			
28	○			Web技術演習Ⅱ	動的にWebページの内容を書き換えるJavaScript技術を学習する。	2後	72	4	△	○	△	○	○			
29	○			検定対策応用AⅠ	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。	2前	72	4	○			○	○			
30	○			検定対策応用AⅡ	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。	2後	36	2	○			○	○			

(工業専門課程 ITエンジニア科4年制)																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	31		○	高度ネットワークⅠ	ネットワークスペシャリスト試験および応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの利活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、記述式試験の解答テクニックを身に付ける。講義→演習問題→問題解説の流れで進める。	2前	36	2	○			○		○		
	32		○	検定対策応用C	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。	2前	36	2	○			○		○		
	33		○	高度ネットワークⅡ	ネットワークスペシャリスト試験および応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの利活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、記述式試験の解答テクニックを身に付ける。講義→演習問題→問題解説の流れで進める。	2後	72	4	○			○		○		
	34		○	CCNA 対策講座	シスコ・ネットワークングアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワーク技術者（もしくはネットワークインフラに詳しいシステムエンジニア）として必要とされる知識と技能を修得する。	2後	72	4	○			○		○		
	35		○	高度セキュリティⅠ	情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に付ける。 講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。	2前	72	4	○	△		○		○		
	36		○	高度セキュリティⅡ	情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に付ける。 講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。	2後	72	4	○	△		○		○		
	37		○	検定対策応用BⅠ	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。	2前	72	4	○	△		○		○		
	38		○	検定対策応用BⅡ	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。	2後	72	4	○	△		○		○		
	39		○	高度セキュリティ試験対策	情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に付ける。 講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。	2前	18	1	○	△		○		○		
	40	○		国家試験対策応用	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。	2後	72	4	○	△		○		○		
	41	○		Linuxサーバ構築Ⅰ	Linux(CentOS)によるサーバの構築を行う。インストール、基本操作、セキュリティやシステム管理の基本について演習を行う。	3前	36	2	○	△		○		○		○
	42	○		Linuxサーバ構築Ⅱ	各種サーバの構築・設定を行う。	3後	72	4	○	△	△	○		○		○
	43	○		新技術動向	obniz等の機械によるIoTの技術の講義、実技を行う。成果物を通してレポートの作成、IT関連の情報収集を行う。	3前	36	2	○			○		○		
	44	○		システム開発演習Ⅰ	実現場での業務を題材に、課題設定からDXツールを活用したアプリ制作、提案に至るまでの一連の課題解決授業を実施する。 前半は基礎知識習得に向けた座学中心の授業、後半はグループワークにて授業を進める。	3前	72	4	△	○	△	○		○		○
	45	○		システム開発演習Ⅱ	テーマに沿って、要件定義からテストまで行うことでWebアプリケーションを構築する力を身に付ける。	3後	144	8	△	○	△	○		○		

(工業専門課程 ITエンジニア科4年制)														
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
							講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択												
46	○		クラウドコンピューティング	AWSを題材として、現代社会で利用されているクラウドコンピューティングを学ぶ。 またAWSのサービスを理解しシステム構築における幅を持てるようにする。	3前	72	4	○			○	○		
47	○		プログラミング総合演習	C#を利用し、Windowsフォームアプリケーションを開発する。	3前	36	2	△	○		○		○	
48	○		ソフトウェアテスト基礎	ソフトウェア品質に関する基礎知識、およびソフトウェアテスト設計に関する基本スキルを身に付ける。	3後	36	2	○			○	○		○
49		○	高度セキュリティⅠ	情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に着ける。講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。	3前	72	4	○	△		○		○	
50		○	高度セキュリティⅡ	情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に着ける。講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。	3後	72	4	○	△		○		○	
51		○	検定対策発展BⅠ	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために学習を行う。	3前	72	4	○			○		○	
52		○	検定対策発展BⅡ	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために学習を行う。	3後	72	4	○			○		○	
53		○	高度データベース	データベーススペシャリスト試験に合格するための知識や解答テクニックなどを習得する。	3前	72	4	○			○		○	
54	○		検定対策発展A	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために学習を行う。	3後	72	4	○			○		○	
55		○	検定対策発展C	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために学習を行う。	3前	72	4	○			○		○	
56		○	高度セキュリティ試験対策発展	情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に着ける。講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。	3前	18	1	○	△		○		○	
57	○		卒業研究Ⅰ	グループ単位でシステム企画、構想、設計、ビジネスモデルの構築を行う。前期は、完成形イメージの確立、開発環境の構築 および開発スケジュールの確定を中心にシステムの主要機能の構築を目指す。	4前	144	8	○	△		○		○	
58	○		卒業研究Ⅱ	前期に続いて、グループ単位で、システム開発を実践し、システム(アプリ)を完成し、公開することを目指す。 持てる力を全て発揮して4年間の集大成の名にふさわしい作品となることを期待する。	4後	180	10	○	△		○		○	
59	○		プロジェクトマネジメント演習Ⅰ	実際の現場でのプロジェクトの問題を例題として、「原因は何か」からの「必要な知識」という流れで、プロジェクトマネジメントに対する 必要な知識を習得する。	4前	36	2	△	○	△	○		○	
60	○		プロジェクトマネジメント演習Ⅱ	実際の現場でのプロジェクトの問題を例題として、「原因は何か」からの「必要な知識」という流れで、プロジェクトマネジメントに対する 必要な知識を習得する。	4後	36	2	△	○	△	○		○	

(工業専門課程 ITエンジニア科4年制)															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
61	○			アジャイル開発基礎	スクラムのフレームワークに関する基礎知識、およびスクラムマスターとして動くための基本スキルを身に付ける。また、スクラムへの理解だけではなく品質保証会社ならではのアジャイル開発の中での品質保証の方法論についても学ぶことができる。	4前	36	2	○			○			○
62	○			AIプログラミング基礎演習	(1)Pythonの制御構文を学習する。 (2)scikit-learnを利用し機械学習の基礎を学習する。	4後	36	2	△	○		○			○
63	○			3DCGゲームプログラミング	ゲームエンジン(Unity)を使って、複数のゲームを開発することを通して、スケジュール管理、デザイン、ユーザを楽しませる視点などアプリ開発に必要な技術を習得する。	4前	36	2	○	△	△	○		○	
64	○			LPIC対策	Linuxの基本操作やシステム管理の基礎を学習する。LPIC101試験への合格を目指す。	4前	72	4	○			○		○	
65	○			検定対策総合AⅠ	社会に出た際に必要となる技術・資格を各自設定をし、計画を立てて取得に向け問題演習を実施する。	4前	72	4	○	△		○		○	
66	○			検定対策総合AⅡ	社会に出た際に必要となる技術・資格を各自設定をし、計画を立てて取得に向け問題演習を実施する。	4後	72	4	○	△		○		○	
67	○			新技術動向総合	卒業研究などに役立つ技術的な知見を得る一助として、現在利用されているさまざまなIT関連技術やニュースピックの紹介・解説を行う。技術演習の他、レポート作成方法の演習も合わせて行う予定。	4前	36	2	○	△		○		○	
68			○	高度ネットワーク試験対策Ⅰ	ネットワークスペシャリスト試験および応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、記述式試験の解答テクニックを身に付ける。講義→演習問題→問題解説の流れで進める。	4前	36	2	○	○		○		○	
69			○	高度ネットワーク試験対策Ⅱ	ネットワークスペシャリスト試験および応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、記述式試験の解答テクニックを身に付ける。講義→演習問題→問題解説の流れで進める。	4後	72	4	○	○		○		○	
70	○			やってみなはれ演習Ⅰ	様々な事を題材に、社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す	1前	36	2	△	○	△	○		○	
71	○			やってみなはれ演習Ⅱ	様々な事を題材に、社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す	1後	36	2	△	○	△	○		○	
72	○			キャリアデザイン	(1)実社会でのビジネスシーンを題材に、どうすれば社会が求めるビジネスパーソンになれるのかを学習する。 (2)高いレベルで物事を考えられるビジネスパーソンを目指す。	2後	36	2	○			○		○	
73	○			やってみなはれ演習Ⅰ	様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。	2前	36	2	△	○	△	○		○	
74	○			やってみなはれ演習Ⅱ	様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。	2後	36	2	△	○	△	○		○	
75	○			プレゼンテーション演習	プレゼンテーションの内容設計、資料デザイン、伝え方について学ぶ。	3前	36	2	△	○		○		○	

(工業専門課程 ITエンジニア科4年制)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択													
76	○		就職講座A	就職活動の流れを知り、自己分析や企業研究ができる力を身につける。内定をいただくためにやるべきこと、必要なことを考える。	3 後	36	2	○			○		○		
77	○		就職講座B I	就職活動における「自分自身の将来像・目標に向かうための心持・自己理解等」の準備、実践を行う。	3 前	36	2	○		△	○		○		
78	○		就職講座B II	就職活動全般についての対策を行う。	3 後	36	2	○		△	○		○		
79	○		社会人基礎力演習 I	様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。	3 前	36	2	△	○	△	○		○		
80	○		社会人基礎力演習 II	様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。	3 後	36	2	△	○	△	○		○		
81	○		データサイエンス基礎	データサイエンスの基礎となる統計学を表計算で学ぶ。統計の意義を理解し、適用可能な事象を発見する。表計算の操作手順を学ぶだけではなく、結果の正しい解釈を学ぶ。	4 後	36	2	○			○		○		
82	○		社会人基礎力演習応用 I	様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。	4 前	36	2	△	○	△	○		○		
83	○		社会人基礎力演習応用 II	様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。	4 後	36	2	△	○	△	○		○		
合計					83	科目	222 (3,996) 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 124単位を習得し、全ての必修科目と選択必修科目を習得していること	1 学年の学期区分	前後 期
履修方法： 必修科目の他に選択必修、任意選択科目によって履修する講義・演習時間が変わる場合あり。	1 学期の授業期間	18 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。